

《 競技注意事項 》

北海道歯科医師野球連盟

1. 試合はスピーディに行い、無駄な時間を省くこと。
2. 投手はプレートに足を触れてから捕手のサインをみること。
3. 走者ある場合、投手がプレートから軸足はずしして走者なき塁に送球したときは、審判員はボークを宣言する。
4. 走者が盗塁を企てたときは、打者が捕手の送球を妨害した場合には打者がアウト、この場合打者がバッターボックスから踏み出したというだけでは妨害にならない。現実には打者が捕手の守備を妨げたかどうかによって決定される。ただし、捕手が送球して走者がアウトとなれば打者のアウトは取消される。
5. タイムはプレーヤーの要求した時ではない。あくまでも審判員の認めたときである。また打者は投手が投球の動作に入ったら、打者席から出ることは許されない。
6. ベースは危険防止のため移動ベースとする。プレー中ベースが移動しか場合は元の位置、またはベースのどちらでもよい。ただし、持ち歩くことは禁ず。固定ベースの設置されている球場の場合はこの限りにあらず。
7. 投手が投球動作を越えすと同時に、かん声をあげたり、かね太鼓を乱打して応援することがあるが、その度合いが過ぎると判断したときは審判員より注意を与えるが、各チームはベンチ側の応援団のできごと問しては責任を持つこと。
8. 抗議のできるのは監督、または主将と当該プレーヤーとする。
9. 試合時間は5回戦もしくはに時間30分とし（交代および疑義並びに話し合いの時間を含む）1時間20分を超えて次のイニングに入ることはできない。優勝戦は7回戦とする。ただし、B・Cゾーンにおいては、優勝戦を5回戦とする。
10. 5回戦で3回以降の点差が10点以上の場合は、コールドゲームを適応する。ただし決勝戦では適応しない。また後攻めの時はスリーアウトにならなくてもよい。
11. 試合ボールはA号を使用する。従って死球を認める。ただし、故意にボールにあたりもしくはボールを避けようとせず、これを審判員が認めた場合には死球は成立しない。
12. 予選リーグを棄権したチームは、無条件に最下位とする。
13. 順位決定戦を放棄したチームは無条件に下位とする。
14. 時間切れ、同点の場合は9人によるジャンケンとする。
15. 同率の場合は、下記の項順により順位を決定する。
 - イ) 全得点・全失点の差で得点の最多チーム
 - ロ) 監督によるジャンケン